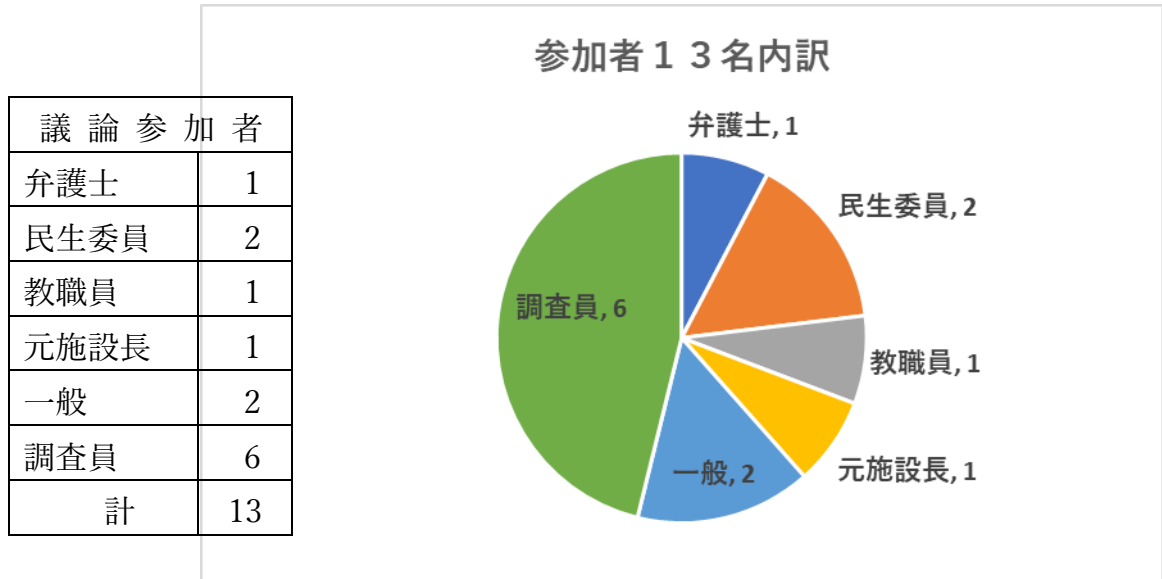


里親研修会（20.1.26）報告

NPO 法人だれにも音楽祭

場所：はぴねす 日時：令和2年1月26日（日）13：30～15：30

議題：社会の課題と里親制度 講師：三藤省三弁護士 議論参加者 13 名。



（主な意見の趣旨）

- ・心配な子どもというのは、厳しいところの子どもであることもある。
- ・生活パターンが、昔と比べ厳しくなっている。
- ・子どもは本能的に、やさしくしてくれる人を欲している。
- ・虐待を受けていても、親を一番に思っている。
- ・虐待を受けると、表情が暗くなり、突き抜けた明るさが見られなくなる。
- ・里親同士、仲間を作って情報交換することが大切。
- ・子どもの方がより親を愛していて、信頼を裏切られると荒れる。
- ・自立するという事は、親を捨てること。
- ・子どもは人懐っこいが、“カマをかけて”人を見極めている。
- ・現代は、スマホで借金が可能になっている。
- ・養護施設によっては、70年前から小舎制（9人以下）を実施しており、新しい養育ビジョンに、すでに対応できている。
- ・働き方改革があり、職員が住み込みで働くことも困難な時代。
- ・終戦後は、1,000人程度の孤児が収容されていた。
- ・保護者の考えと、子どもが感じていることは、必ずしも同じではない。
- ・信頼関係を築き、良い面を伸ばしてあげると、将来を自ら切り開いてゆく。
- ・韓国の里親受託率は43.6%で、日本の受託率12%の3.6倍ある背景は何か。
- ・子どもは家族の宝であると同時に、社会の宝。
- ・大人が公正な社会を提供することで、心の傷は癒されるのではないか。

今回は、今後の方向性まで検討できませんでしたが、以下は提案です。

(今後の方向性)

自己責任に属さない部分を、かさ上げして、人生を全うできるようにする。



同じスタートラインで



(考えられる支援)

- ・ 里親募集活動の強化
- ・ 無料の学習指導塾
- ・ 国立大学入学に擁護施設枠を設ける
- ・
- ・

以上

